

事故の種類	診断名	事故の原因	再発防止策
転倒	外傷性くも膜下出血	<p>(本人) 歩行器を持ち、立ち上がったがバランスを崩してしまった。靴をスリッパ履きしていることが多い。歩行器が壁付けしてあったので、狭いスペースだったことから後ろ向きでベッド横から出ようとした可能性がある。</p> <p>(職員) 自律動作中だったため、特に危ないと思っていなかった。</p> <p>(環境) センサーマットは足元の電池が切れていて使用していなかった。隣の利用者のカーテンが引いてあり、歩行器でUターンしきれなかったと思われる。</p>	<p>(本人) 歩行器で歩行可能であるが、移動時は付き添うようにする。</p> <p>(職員) トイレ誘導時はそばで見守る。</p> <p>(環境) ベッドサイドにセンサーマットを使用し、転倒の無いよう対応する。</p>
転倒	左大腿骨頸部骨折	<p>(本人) 居室にて転倒し、タンスを背に横すわりのような状態で座り込み。</p> <p>(職員) センサーマットは反応したが、職員は厨房にいたため、受信音が聞こえなかった(聞こえると思い込み持つて行かず、換気扇やレンジの音で気づかず)。</p>	1人でホールを見守る際は必ず受信機を携帯。携帯用受信機を増し、厨房に設置する。
転倒	第一腰椎骨折	<p>(本人) 2月中旬頃より、1～2か月に1度の頻度で軽い転倒やふらつきによる「ヒヤリハット」や事故報告が上がっていた。センサー等の使用を検討したが、日常生活動作は自立されており、使用対象のレベルではないと判断していた(センサーを使用することにより、阻止できた可能性は否定できないが、行動は制限され自由を奪ってしまうことにもなりかねない)。</p> <p>(職員) 巡回時はよく休まれ、離床されないと思っていた。</p> <p>(環境) センサーマットのコール音で他利用者から不満の声があり、センサーマットを撤去していた。</p>	行動を制限しない、不自由さを感じさせないことを前提に、安全確保に向けた手法を、関わるスタッフ全員で話し合っていく必要がある。
転倒	打撲	<p>(本人) 体力測定中に指示理解が十分でなかったまま歩行測定で転倒。</p> <p>(職員) 靴が大きいことの確認ができていなかった。ほかに意識が行き、本人がつまづいたことに気づくことに少し遅れた。手で触られる距離にいなかった。</p> <p>(環境) 靴が大きく、歩くとかかとが脱げそうになっており、つまずきやすい状態だった。ロッカーから座布団がはみ出していた。</p>	<p>(本人) 靴の変更を薦める、もしくは、靴下やインソールの使用を促し、靴が脱げないようにする。</p> <p>(職員) 体力測定の4m歩行測定では見守りの位置を手が届く距離まで近くにする。</p>
移乗介助後の肩の痛み	左上腕骨折近位端骨折	<p>(本人) 左半身麻痺で、立位時に足に力が入らない。</p> <p>(職員) 左麻痺側への慣れから来る注意不足。本来なら、ベッドの左の頭側から健側を軸にして移乗しなければならないが、足側から患側を軸にして移乗してしまった。麻痺側の手が体の下になった。</p>	<p>(本人) 衣類は着脱しやすいものに交換し、痛みや無理がかからないよう配慮する。</p> <p>(職員) 移乗は職員2名で並行で行う。</p> <p>(環境) 車いすはチルト式車いすへ変更。</p>

事故の種類	診断名	事故の原因	再発防止策
誤嚥・窒息	誤嚥性肺炎	（本人）行事食でいろいろなパンの中から好みのものを選んで食べてもらっている際、アップルパイを摂取後に意識喪失した。普段食べ慣れていない物で、何か判別できなかった。 （職員）食べられると思い、注意深く観察していなかった。	（本人）行事の前に利用者情報を収集する。 （職員）行事で市販物を提供する時は、具材の大きさや形状などに危険がないか注意し、口腔内に食物が残っていないか必ず確認。
転倒	左肩裂傷、左側頭部打撲	（本人）寝返りをしたらベッドから転倒して落ちた。 （環境）L字柵が伸びていなかったので布団事落ちやすい環境だった。	安全管理委員会と当事者で現場検証し、再発防止策を検討する。
転倒	頭部強打	（本人）夕食を介助で終えた後、静かに椅子に座っていた。職員が目を離した一瞬のうちに後方へ椅子ごと転倒した。	安全管理委員会と当事者で現場検証し、再発防止策を検討する。
転倒	切傷	（本人）車いすに介助で移乗し居室に向かった途中、扉を開けようと車いすを停車した際、上司前方に傾き床に引っ掛かり転倒。 （職員）車いす移乗後の体制を整えなかった。	（本人）車いすで動く前には、座面への設置面を確認しフットサポートは必ず使用する。 （職員）移動する際は、スピードは出さず、停車する際、肩に片手を添えるなど車いすから転倒しないように体を支える。
不明	右大腿骨頸部骨折	（本人）毎日の歩行で下肢に負荷がかかっていたかもしれない。歩行時にふらつき、右に傾く傾向があった。「足が痛い」と訴える時がある。ベッド柵にもたれかかるようにベッド上で座っていたため、足をくねらせたか、ぶつけたか。 （職員）歩行の際はふらつきがあるため移動時は必ず付き添い歩行しているが、本人のペースに合わせて歩行できていなかったかもしれない。ベッド付近まで誘導したが、座るのを最後まで見届けず、本人から目を離してしまった。 （環境）転落、転倒防止のため、センサーマットを使用している。	（最終報告時に検証結果報告）
転倒	打撲	（本人）いつもは押し車を使って移動しているが、当日は杖で外出。帰所時、いつもと勝手が違い段差前で足を上げたが段上に届かず、バランスを崩して右手をついたが支えきれず転倒した。	（本人）外出時も押し車を使っただけよう促す。
事故の種類	診断名	利用者	職員
感染症	新型コロナウイルス感染症	16名（1施設）	1名（1施設）